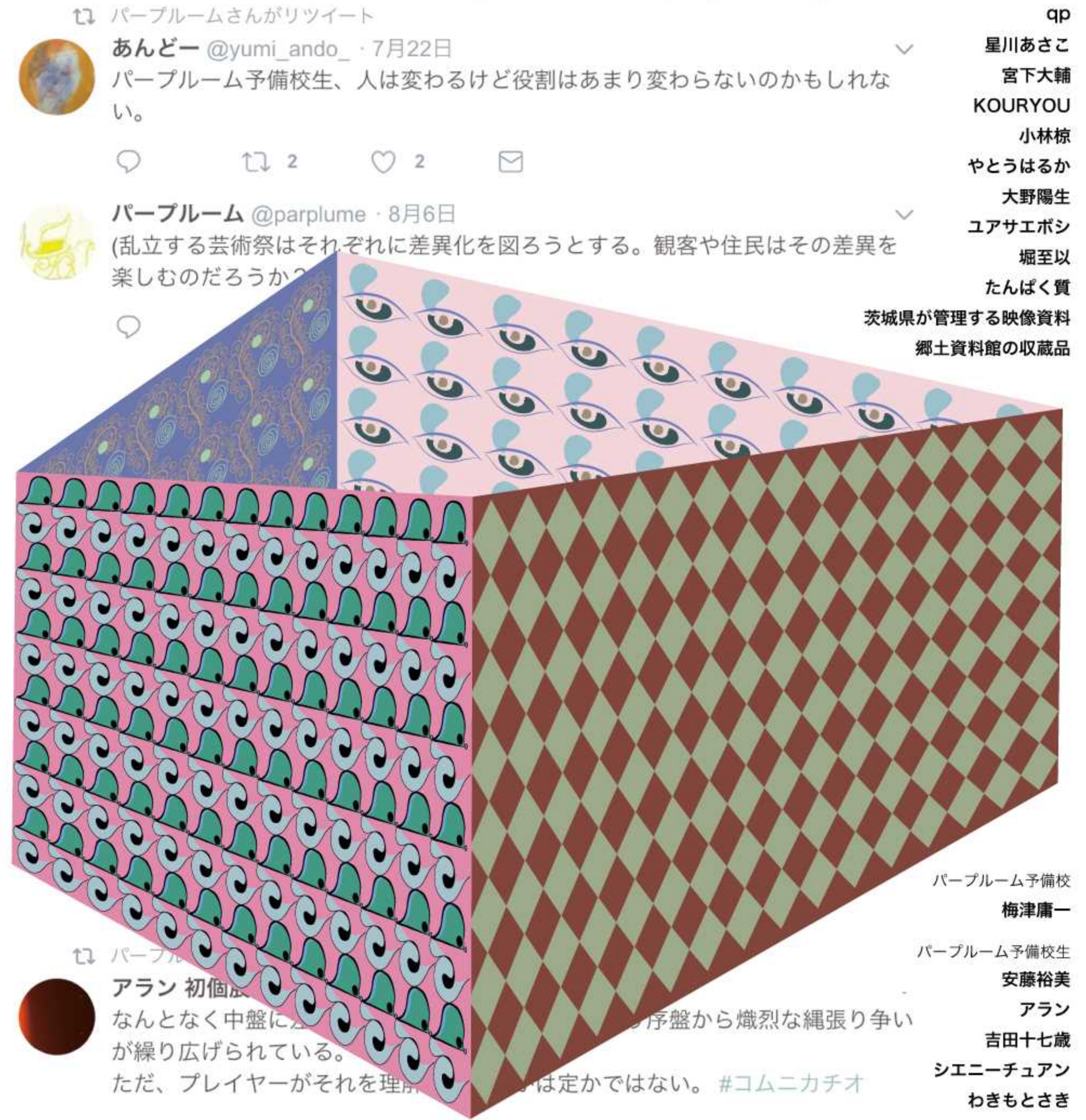


パーブルーム大学附属ミュージアムのヘルスケア

金中高貴
西島大介
藤伸行
リスカちゃん
QP
星川あさこ
宮下大輔
KOURYOU
小林椋
やとうはるか
大野陽生
ユアサエボシ
堀至以
たんぱく質
茨城県が管理する映像資料
郷土資料館の収蔵品



2018.9.15(土)-9.29(土) 10:00-17:00
 会場：茨城県常陸太田市郷土資料館梅津会館 入場料無料 主催：茨城県 休館日 18(火)・25(火)
 企画：エヌ・アンド・エー(株) Meets KENPOKU 県北芸術村推進事業交流型アートプロジェクト vol.1

『パーブルーム大学附属ミュージアムのヘルスケア』について

郷土資料館に陳列されている品々は多岐に渡っている。よそ者の自分にとっても常陸太田市の歴史を追体験できたいへん興味深い。しかし、よくよく考えてみると全国の市町村にある郷土資料館はその土地固有の歴史を伝えているだけではない事に気付かされる。郷土資料館という形式はミュージアムの原形と似ているのではないかという事である。美術館(アート・ミュージアム)は今でこそ博物館や科学館、図書館などは区別されているが、16世紀以前はもっと区分が曖昧でその土地の有力者や学者が個人でありとあらゆるものをコレクションし飾りつけた部屋だったという。今回、わたしたちパーブルームは現代美術だったり、それに隣接する領域に携わる人々の作品やその副産物を梅津会館に運び入れ収蔵物と融和的に接続したり異化を生じさせたりする。例えば2018年に制作されたにも関わらずはるか昔の時を内包するオブジェクトもあればその逆もあるだろう。

また展覧会をつくるということは「キュレーション」という要素を避けては通れない。今回は茨城県から公的な委託を受けて行う、いわば企画内で企画を行うという入れ子状の構造になる。キュレーションという言葉の語源は curare (世話をする) であるが、今日キュレーターと言えばプレーヤーとして自らのプロジェクトを遂行する者という印象が強い。本展はそういった時流を前提にキュレーションの在り方をあらためて考える場でもある。

ところで地域アートという言葉が定着し、芸術祭が全国各地で開催されるようになって久しいが、その盛り上がりとは裏腹に全国の美術館や博物館の予算は減少傾向にありコレクションの追加はおろか作品の修繕もままならない館も多く存在する。本展『パーブルーム大学附属ミュージアムのヘルスケア』は美術館に眠る作品たち、現代そして過去の作家たち、地域アートに関わる人々を概念の上で「ケア」することを志向する。と言っても何かが目に見えて解決することはないだろう。しかしある問題(病気)を治療



撮影 | 藤田直希

させたり、告発することだけが美術/アートの役割だとは思わない。本展では、地域住民や観光客に対して気の利いたうへのサービスを提供するつもりはない。美術である必然性を人との交感や土地との関わりに代理させると、美術はより一層病んでいくのではないだろうか。本展は自己完結した作品であるが、ある一部の人にとっては人生を賭けた参加型アートと言えるだろう。

この期間限定のミュージアムは明治維新後の「近代の日本」と広義の意味での「展覧すること」を基礎として様々な水準の人工物や生活、教育を連帯あるいは破綻させる抽象度の高い空間になることが予想される。

梅津庸一(美術家・パーブルーム主宰)

パーブルームについて

パーブルームとは神奈川県相模原市にあるパーブルーム予備校を拠点にした美術の共同体である。全国各地から集まった6人が半共同生活を営みながら活動している。また多くの人々がそこに出入りし緩やかなコミュニティを形成している。
<http://www.parplume.jp>

県北芸術村推進事業「交流型アートプロジェクト」とは

風光明媚な海と山が織り成す豊かな自然に恵まれた茨城県北地域は、かつて岡倉天心や横山大観らが芸術創作活動の拠点とした五浦海岸、クリストのアンプレラ・プロジェクトで世界の注目を集めた里山をはじめ、独自の気候・風土や歴史、文化、食、地場産業など、多くの創造的な地域資源を有しています。こうした資源の持つ潜在的な魅力をアートの力を介して引き出すことにより、新たな価値の発見と地域の活性化を図るため、「KENPOKU」地域を舞台として2016年秋に「KENPOKU ART 2016 茨城県北芸術祭」を開催しました。

未来に向けて、県北地域は、芸術村へ変わっていくことをミッションとし、2018年もアートを活用したまちづくりに取り組みます。「交流型アートプロジェクト」は、地域外からのアーティストを県北地域に招聘し、地域の方々とのコミュニケーションをとりながら行うアートプロジェクトです。3組のアーティストが、約1ヶ月間、それぞれに滞在拠点を持ち、地域との関係を深めながら制作活動を行います。

各プロジェクトの詳細は、芸術祭公式ホームページ内「イベント」にてお知らせいたします。<https://kenpoku-art.jp/event/>

Meets KENPOKUとは

「Meets KENPOKU」は、「KENPOKUに出会える」ことをコンセプトにトーク、ワークショップ、交流会等、参加者との双方向的なコミュニケーションを図る様々なアートイベントです。

※このほか、芸術祭の会場となった6市町でも年間を通して様々なアートイベントが開催されています。詳細については、芸術祭公式ホームページをご覧ください。

会期中のイベント

会期中、展覧会に関連した様々なイベントの開催を予定しています。

最新情報はこちらから。<http://www.parplume.jp>

※プロジェクト中の様子を記録撮影いたします。記録物は、広報媒体等に掲載させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

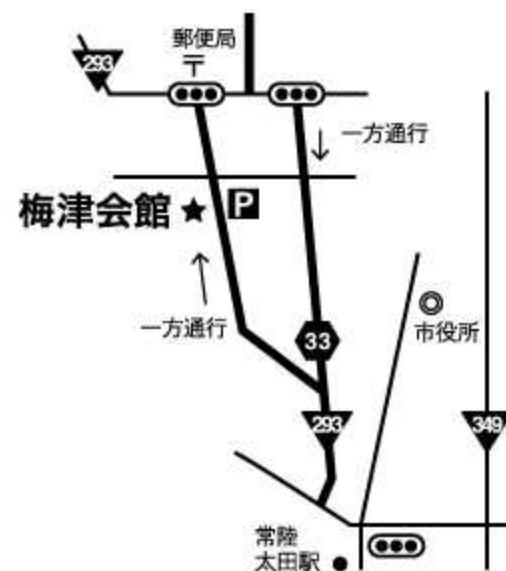
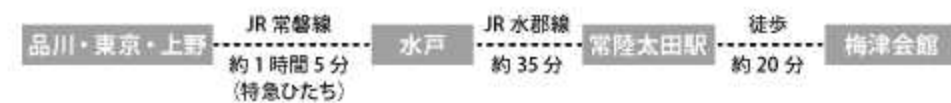
交通のご案内

会場：常陸太田市郷土資料館梅津会館(茨城県常陸太田市西二町 2186)

自動車でのアクセス：常磐自動車道日立南太田 IC より約 20 分。那珂 IC より約 25 分。※駐車場は、梅津会館前市営駐車場をご利用ください。(無料)



公共交通機関でのアクセス：常陸太田駅より徒歩約 20 分。常陸太田駅まで、水戸駅より水郡線(常陸太田方面)にて約 35 分。水戸駅まで、東京駅より常磐線特急ひたちにて、約 1 時間 5 分。



お問い合わせ

〒310-8555 茨城県水戸市笠原町 978 番 6 茨城県政策企画部県北振興局
 Tel: 029-301-2727 Email: info@kenpoku-art.jp www.kenpoku-art.jp

